万博が〝平和の祭典〟であり続けるよう
大阪・関西万博の成功を未来につなげるべき

１０月１３日「大阪・関西万博（２０２５年日本国際博覧会）」が閉幕しました。

一般来場者数は２５５７万８９８６人、関係者を含めた総来場者数は２９０１万７９２４人という成果は、大盛況かつ大成功だったと思います。

掲げられたテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」。

なんと万博が閉幕した１０月１３日、その日にイスラエルとハマスの停戦合意が伝えられ、そのテーマの一致と奇遇とタイミングに驚きました。

今回伝えられたイスラエルとハマスの停戦をきっかけに、ロシアとウクライナをはじめ世界の戦争を止めるべく、米国のトランプ大統領が奔走しています。

是非とも１日も早くこの世界から戦争が無くなることを祈ってやみません。

万博会場の中で提示された未来社会の片鱗には、この国の、そして世界のこれからの在り方を垣間見ることができました。

とくにＡＩ（人工知能）の発達によって成し遂げられる未来社会の姿や、遺伝子工学の発展によってもたらされるであろう人生１００年社会の実現など、万博会場内にはテーマに相応しい展示が数多くありました。

単に便利で長寿なだけではなく、そこにあるのが明るく輝く世界であって欲しい、そう願わずにはいられません。

そうした未来社会をこれからどう作り上げていくのか。

そうしたことをこの機会にもう一度しっかりと議論し、次の世紀、そして未来に繋いでいってこそ、万博開催の意義があると思います。

次回は２０３０年にサウジアラビアのリヤドで開催される「２０３０年リヤド国際博覧会」となりますが、今回の万博でまかれた種が実り、世界が平和を享受し、人類に明るい未来が提示されてこその次回リヤド国際博覧会であると思います。

そして未来永劫、万博が〝平和の祭典〟であり続けていくことを願っています。

１８４日間の会期を無事に終えたことこそが日本という国の成熟を証明してくれています。

次世代の万博に向けて、未来に向けて、日本が世界に貢献し、輝かしい世界が実現すること願っています。

本誌主幹 大中吉一